

高等小學  
女子用  
習字本  
日用書類 三ノ下  
菱澤揮毫

女子用習字本

K120  
32.4  
3.2

K120.71

32.4

3.2

埼玉私立教育會編纂  
卷 菱澤揮毫

第三年後期

高等小學  
女子用  
習字本

日用書類

埼玉私立教育會藏版

留書中 古法視

切之度 古法見壽

下之凡 古法見壽

持人作

今の陶也致しや

此亦い彼地の名産と

ゆまき少と三の道入とも

魂こ入れ作。

今のき祇園祭へ清

供中へぐと樂み居

獲ひひくの昨夜の

妹たれ事少

不快よて医師を尋  
 入作始末故糸里  
 苗のすく古連申様へ  
 宜敷敷に頼り上ふ。  
 先白古の五寄せ下さ  
 ぬの様形ひ置ふ女  
 用文章まゝおる居  
 名に此使し者へ

唐等書字本  
 卷二  
 月  
 〇  
 三十一



汚友遠くたれく  
様も出の答ふ付  
思る如何に也  
目ひ中ふ。

私未見物に為め  
公園へ出たされ  
作りて私まで  
と誘ひ下さる

何れかしく裁ん  
株よきと連中故  
直支度つた  
子出やづくふ。

箱桶あ見張ひの上  
縮緬四五反あんせ  
下さし度尺直版  
少々のほり片てん

成る丈よ後〜き  
分ニ形ニひよハ序ニ  
花色猶も二三反  
好見いた〜度ハ。  
何ハを久ニ〜  
出下ニきキ度ハ不レ何  
此レ愛ハ志ハもレなくレ恥  
八ノ度ニしてハ涉リ遍リ

萬葉集卷之九 古歌 八ノ度ニして涉リ遍リ



好いされ居後袂紗

一ツ古座居多分古

前様の清品と存

いゆまゝさ〜上中下

清房をても宜あぬ居

不能と袂紗古遣

い下され誠子中

律なま事古座居

全く私の冒頭忘れた  
る品々をすくう子数の  
ほど皆の様々を宣  
教は教中よ。

此頃を學校へ御  
見え好むをされども  
満々如何なさまを  
事と立案し中よ。

由しや清に加減を

もよ後くうら後名也

一寸古く少くせ下さ

れ度度也。

清親切く清尋ね

下され疎く嬉む

存く風物く気味

て頭痛いたくゆ故



欽定四庫全書

卷之十一

七